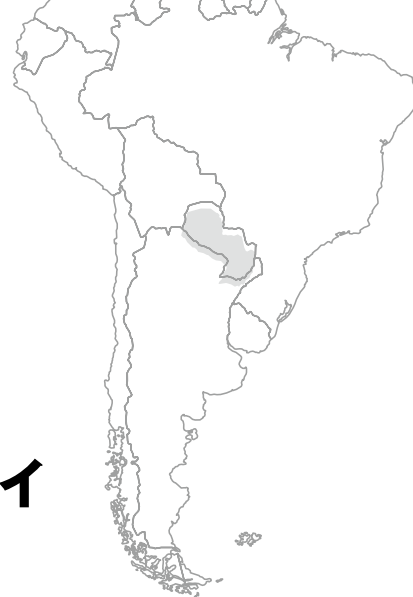




パラグアイ共和国
República del Paraguay



日本人移住 80 周年を迎えたパラグアイ そして日系社会

田中 裕一

今年 2016 年は最初に日本人がパラグアイに移住して 80 周年の節目の年となります。今から 80 年前、1936 年に日本人最初の移住者が首都アスンシオンから南東に 130 キロに在るパラグアリ県ラ・コルメナの地に入植しました。移住にあたり 11,000 ヘクタールの土地が確保され、この移住地は勤勉な日本人にふさわしい名前として蜜蜂の巣箱を意味する「ラ・コルメナ」と命名されました。同年 5 月 15 日にはパラグアイ拓殖スタッフが現地に入り、建設の第一歩を印しました。この日を日本人移住の記念日としています。

当初は言語、習慣等が異なり大変な苦勞をされ、第二次世界大戦の際には敵性国民となり日本語教育が禁止される等、様々な困難があり、それらを乗り越えながら野菜や果物を生産し、それまでパラグアイの人が見たことも無かったいろいろな作物を導入し食生活をより豊かにし、地域の発展、雇用にも大きく貢献しました。今では国内随一の「フルーツの里」として知られるようになっており、ぶどう、柿、すもも、かんきつ類など多種多彩な果物が生産されています。なお、ラ・コルメナ市の市章にはパラグアイ国旗とともに日の丸が描かれています、日本国外

の市章では他に余り例が無いことだと思います。

戦前の入植地はこの一ヶ所だけでしたが、戦後は穀倉地帯である南部のイタプア県、東部のアルトパラナ県等に多くの入植者が入り、現在では約 10,000 人の日本人・日系人がパラグアイ各地で暮らしており、各移住地ではそれぞれ日本人会を作り全体を束ねる形で日本人会連合会を形成しています。多くの方が従事している農業分野においては、主力生産物の大豆は日本人が先駆けて導入し農法を研究、改良を行い、今ではパラグアイを代表する輸出産品に育っています。その他の代表的な作物としては、とうもろこし、米、小麦などが挙げられます。この中で小麦は農閑期の裏作として導入されたもので、この他にも菜種、燕麦

など多様な作物が生産されています。養鶏場や肉牛の生産に従事される方もいて、和牛も生産されています。またアスンシオン市、エンカルナシオン市、エステ市などの都市部では農産品加工、自動車販売、修理工場、金融保険、飲食店・ホテル経営、スーパーマーケットなどの小売業など様々な分野に進出しており、また医師、歯科医師、弁護士、公証人、建築士など専門職として活躍される方も多数輩出するようになっています。

日系社会では教育にも力を入れていて、各地で日本語学校を運営し子弟に日本語教育を行い、同時に伝統文化を教えています。多くの家庭では当地の国語であるスペイン語とのバイリンガル教育を行っており、南米の中に在る日系社会の中でも二世、三世の

日本人パラグアイ移住年表

1936 年	首都アスンシオンから南に約 130 キロ離れたパラグアリ県のラ・コルメナと命名された地に 4 家族 33 人が第一陣としてパラグアイに移住された。
1952 年	エンカルナシオン近辺に位置する、フェデリコ・チャベス移住地が戦後初の移住地として開設された。入植者は 628 人。
1955 年	入植者 1,152 人が到着し、フェデリコ・チャベス移住地に隣接する富士地区、フラム移住地（現在のラパス）が設立された。
1956 年	アメリカ経済振興会社（略称 CAFE 耕地）との契約雇用農として 38 家族がパラグアイの北部に移住された。これがペドロ・ファン・カバリエロ及びアマンバイ移住地の始まりとなった。
1960 年	ピラボ移住地が開設された。1965 年までに 331 家族、1,777 人が入植し、現在でも日本人・日系人は約 1,200 人と最大の移住地となっている。
1961 年	ブラジル国境から 41 キロ地点にアルトパラナ県イグアス移住地が開設された。現在は約 180 世帯の日本人・日系人が暮らしている。

日本語能力は非常に高いものがあります。また現地の方の日本に対する尊敬の念は強く、日本的な教育を目指している「日本学校大学」(UNIVERSIDAD NIHON KAKKO)という学校まであります。日本に留学した現地の方(非日系)が日本に感銘を受けて設立したのだそうで、現地で認可を受けた正式な大学であり、小中高校も併設されており、毎朝生徒全員で日の丸を掲揚し君が代を歌うのだそうです。

パラグアイはブラジル、アルゼンチンという南米の2大国に挟まれており、日本の方達には余り注目されていませんでしたが、近年南米諸国の中では著しい経済成長を遂げ、政治経済も安定しており、また各種優遇政策、会社設立、税制、労働法など近隣諸国と比較してメリットが多い事が認識されるようになって来ました。現在では日本から進出する企業が出始めるまでとなり、既に造船、自動車部品の生産が開始され、さらに多くの日本企業から新たな進出先候補地として熱い視線が注がれています。この機会を利用してあらためてより多くの日本の方、そして日本企業にもパラグアイの魅力を知っていただき、もっと多くの企業に進出していただき、将来は南米での日本の一大拠点となることを期待しております。

さて、祝賀記念行事に関してですが、実は今までも10年毎の節目には全国の日本人・日系人が一同に集まり盛大な記念式典等を開催して参りました。ただ、残念ながら一度だけの記念行事ではなかなか日本人・日系人コミュニティ



着物ショー

ーを現地社会に対して強くアピール出来るものではありませんでした。奥ゆかしく目立つ事を避ける雰囲気があったのでしょうか。

今回の80周年祝賀行事を行うにあたり幾つかのポイントを考慮しています。パラグアイは親日国を超える存在とも言われており、日本と日本人に特別な敬意を抱いてくれる国です。しかしながら昨今当地においても新興国が台頭して来ており、あらためてしっかりと日本・日系をアピールしてプレゼンスを高く保つことが大切との思いがあります。また、同時に日本人を仲間として受け入れてくれたパラグアイの皆様へ感謝の意をしっかりと示すことも必要でしょう。そして草分け的な初期の移住者達が基盤を築き、模範を示してくれたことに対して敬意を払い、尊重することを日系社会へのメッセージとして贈りたいと考えております。このような強い思いを込めて日本人会連合会の下、日本人移住80周年祭典委員会、その下で祭典

執行委員会を組織し、日本国大使館の協力もいただき一年を通じて様々な祝賀行事を計画、実施しております。なお、議会下院、アスンシオン市、観光庁等では法令にて今年一年を「日本年」と定めています。

一年を通じて折り紙、茶道、華道、書道、盆栽など色々な伝統文化、世界遺産となった和食の紹介、そして野球やサッカー、空手、マラソン等のスポーツ大会、音楽のイベントなどの大小様々な祝賀イベントを行っております。主なイベントとしては2月には日本の伝統の一つを披露しようと着物ショーを実施、単に色々な着物を紹介するというものではなく、踊りやトークを織りまぜて誰もが楽しんで観られるショーとなりました。当日の会場は人で溢れ、外に大画面を用意して入る事が出来なかった方にはそちらで楽しんでいただけるように工夫致しました。

また、3月にはミス日系コンテストを行いました。出来るだけ本格



ミス日系コンテスト

的なコンテストを目指し、ミスパラグアイ コンテストを指導しているプロに初歩から数ヶ月にわたる訓練を依頼し、日系人で現地では著名なデザイナーとして活躍されている方に衣装を発注するなど高いレベルのコンテストを実施出来るよう努めました。全国から集まった18人の参加者の努力もあり、見ごたえのある立派なミスコンテストを開催する事が出来、その様子は地上波全国ネットで完全生中継され一般のパラグアイの方達にも大好評でした。

ラ・コルメナへの入植が開始された日は丁度パラグアイの独立記念日と同じ5月15日で、今年は市の創設80周年並びに日本人移住80周年ということでパラグアイ政府からファン・アラファ副大統領、日本国上田善久大使も列席され盛大な式典が開催されました。式典の後は市内のメインストリーにおいて各学校の生徒などが約一時間にわたり祝賀パレードを行い、午後に行われた祝賀会には約千人の方が一同に集まり、食事をしながらラ・コルメナに住む日系の皆さん、日本語学校生徒達による劇、音楽、舞踊などのアトラクションを楽しみました。

今年のイベント、活動に関して、当地のテレビ、新聞等のマスコミにも積極的に働きかけ、その結果、日本そして日系人に関して連日のように取り上げられるようになってきました。この4月にはマスコミ関係者を対象にしてラ・コルメナ取材ツアーを企画したところ予想を上回る18名の参加があり、新聞紙上、雑誌などに日系人のルーツ、移住者の歴史に関する記事が多く掲載されました。マスコミ関係者に日本並びに日系社会に対する理



ラ・コルメナ創立及び日本人移住80周年記念式典



ラ・コルメナにおける祝賀パレード・市章には日の丸が描かれている

※写真は全て著者が撮影

解がより進んだように思います。

今後も年末まで様々な行事が行われる予定になっています。9月9日(金)にはアスンシオン市近郊に在る会場にて今年のメインイベントとなります合同慰霊祭・式典・祝賀会が開催される予定になっています。パラグアイに住む日本人・日系人のみならず近隣諸国の日系人代表、さらには日本からも政府関係者をはじめ多くの方が参加される予定になっています。もし参加を希望される方がいらっしゃいましたら是非ご一報下さい、大歓迎です。一緒に祝いましょう。

10月15日(土)には「日本祭」というビックイベントを計画しています。アスンシオン市内に在るジョッキークラブという大きな会場を借り切り、屋台やブースで日本食や日本の伝統的な商品を販売すると同時に大きな特設舞台を用意してそこでは日本の祭りの再現、盆踊り、各移住地で行っている舞踊、太鼓、剣舞なども一同に

集め、実演していただく予定です。そして若者達に大人気のコスプレショー等を実施したいと計画、準備しているところです。入場者は15,000人程の規模になると予想しております。日本の皆様にもこの機会に是非パラグアイを訪問され一緒にこの祭に参加していただきたいと考えております。

日系社会はこれから90周年そして100周年に向かってさらに前進し、日系人として誇りを持ちアイデンティティーをしっかりと保ち、進んで行くことでしょう。先駆者である永住者・一世の時代からほぼ二世・三世の時代が変わって来ていますが、若いこれからの世代に対しては先祖に誇りを持って日系社会そしてパラグアイ社会にとってリーダーそして有用な人材となって活躍していただきたいと思えます。皆様には、これからも引き続きパラグアイそして日系社会に注目していただくよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、80周年の情報に関しましては逐次フェイスブック上で紹介しております、こちら併せてご覧いただきますようお願い申し上げます。

<https://www.facebook.com/jp80py/> (パラグアイ日本人移住80周年)

また、イベントに関するご質問並びに参加ご希望の方は下記にご連絡下さい。

日本人移住80周年祭典委員会
事務局長 菊池明雄
kikuchi@rengoukai.org.py

(たなか ゆういち パラグアイ日本人移住80周年祭典執行委員会広報担当)